

事業完了報告書（実行団体）

Version 3.2

事業名:	コロナの影響を受けた障がい児の支援
資金分配団体名:	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
実行団体名:	はまどおり大学
実施時期:	2020年10月～2022年1月
事業対象地域:	福島県いわき市
事業対象者:	障がい児・保護者・相対的貧困家庭・ワンオペ家庭・社会的支援者・教育者・保育者

日付: 2022年2月14日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>コロナ禍でより閉鎖的になった障がい児へのサポートとして、子どもが自身で身を守る手助けのための子どもへの直接支援と、子どもを取り巻く大人支援、そして困った状況にある親が気軽に相談できる場所の常設を行った。</p> <p>①子どもへの直接支援として、「子どもの権利」「いじめ」「不登校」などをテーマとするワークショップ・出張授業を行った。計17回実施。</p> <p>②大人への支援として、専門の講師を招き、特に障がいを持つ子どもを取り巻く環境、支援状況、こどもとの関わり方、更にはこどもの人権を内容とし、毎月1回「はまちる勉強会」を開催したほか、いわき市の教育委員会、障がい福祉課、福島県浜児童相談所などの行政職員も招き、3ヵ月に1回、障がいを持つ子どもも含め、こどもの権利をみんなで考える「はまちるフォーラム」を主催した。</p> <p>③無料で誰でも利用できるカウンセリングルーム「はまちる一む」を常設し、当事者に必要な支援を判断したうえで、行政、法律専門家、医療機関など、適切な機関への仲介を行った。カウンセリングの総件数は、不登校の子ども向けが123回、一般の方向けが83回。</p> <p>④はまちるのサポートメンバー育成のため、月に1度「内部勉強会」を開催し、メンバーのスキル・知識の底上げを行った。</p>
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>コロナの影響で困難さが増した障がい児のサポートという課題設定であったが、思った以上に深刻な状況（精神障害がある未成年者（自傷行為や自殺未遂等あり）がはまちる一むに来所し、福島県立医大やいわき市とも何度も協議を重ね、安心して暮らせる環境調整を試みたケースや、親が薬物事犯を犯すなどネグレクトもあり生活環境が安定しない中で暮らす子がいたり、性別違和による大きな悩みを抱えた中学生がはまちるに繋がるなど）が、勉強会やはまちる一むにより可視化された。①直接の子に対する人権についての学びの場を通して、子らが深刻な状況に置かれていたことがわかったり、親や友だちとの関係での悩みなども見えてきた上、人権意識が高まったことで、助けを求めようとの気持ちや、周りの友だちを支えようとの意識も育まれた。②大人についても、障がい児や発達に特性を持つ子どもが増加している状況が更に見えてきた上、親や支援者が日々悩んでいる状況下で、必要とされる知識やスキルが学べる勉強会を続けることができ、参加者からはこれからすぐに活かしていきたいとの感想が多く寄せられた。また、障がいや発達特性を持つ子どもの現状を今回初めて知った、との感想も多くあり、自分にできることをしていきたいとの意見も多かった。③はまちる一むには、子ども自らがチラシを目にして相談の電話をかけてきたり、障がい等の特性を持つ子育てに悩む保護者が子と共に来所したり、孤立して悩んでいた環境から支援へ繋ぐ役割を果たせた。④メンバーのスキルは相当上がった。</p>
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
子ども・学生	学習機会の不足/格差	月1回、オンラインもしくは対面で勉強会を行うことにより、子どもの権利への理解が親も子も深まり、虐待や不適切な養育が防がれている状態。	各勉強会や対話の会での発言、アンケートなどを通して、子や親の考え方の変容を捉える。	親、子の勉強・対話の会を月に1回ずつ(目標参加人数: 1勉強会に対して5~10人)	子どもを対象にした勉強会を、月に1回を目標に開催。コロナの影響もあり開催できない月もあったが、反対に3回開催できた月もあった。総実施回数17回、のべの参加者数合計は212人(約60人)。平均参加者数は12.47人/回と、目標達成。	コロナにより、予定していた学校での勉強会の回数が少なめにはなったが、小規模の勉強会も多く行えた。人権に対する意識を深めることができ、大人や友だちから嫌だと思ったり嫌だと伝えていいことへの気づきや、不安そうな友だちに声をかけたいなどの気持ちも育まれた。アンケートを実施したいいわき市立中学校3年生のアンケート結果では、約9割の子たちに意識変容が見られ、他の勉強会でも参加者の声からは多くの子の変容が見られた。 関わった子ども達が自ら、生き物の権利と人の権利を考える活動を始めるなど、子が権利主体であるということもよく伝わった結果と考える。
中間支援者	学習機会の不足/格差	親や大人対象に月1回、オンラインもしくは対面で勉強会を行うことにより、子どもの権利への理解が親も子も深まり、虐待や不適切な養育が防がれている状態。	各勉強会や対話の会での発言、アンケートなどを通して、子や親の考え方の変容を捉える。	親、子の勉強・対話の会を月に1回ずつ(目標参加人数: 1勉強会に対して5~10人)	月に1回ははまちる勉強会、3ヵ月に1回ははまちるフォーラムを開催。総実施回数22回、のべの参加者数合計は1142人(約600人)。平均参加者数は51.90人/回と、目標を大幅に達成。	子どもの人権を大事にすると、わがままを助長する、という考えが根深いこの地域で、多様な子ども達が暮らし、その力を伸ばすために関わる大人がたくさんいるということが多くの方に伝わり、人権という概念についてもしっかり学ぶ機会となった。日々、不登校や子の障がいや特性に悩む保護者や支援者が、その子の人権を尊重し、どう関わればいいのかについて知る大切な機会となった。 参加者アンケートには、「子育ての中で、間違いを頭ごなしに違うと言ってしまっていた。なぜ?を聞けるようにしたい」「命令せず、強制もしない。本人の意見を聴く」「きめつけず、子どもの言葉を聴く取る努力をする」「こどもが表現しきれない言葉や思いを熟すまで待つことを心していかなければならないと感じました」「子ども達の意見を尊重させる場を作りたい」「良い子にしているのが当たり前の子育てだった。もっと自分を出してもよい環境にしてあげたかった」「子どもの意見や考えを、真正面から聞いていない自分がいました。ダメなものはダメという前に、どうしてそう思ったのか?と子どもの考えをきちんと受けとめて、一緒にいろいろ考えていく対応に少しずつ変えていきたい」などの感想があった。 アンケートや参加者の感想から、もともと人権に対する意識が高かった方々にとってあらためて考えを深める機会となり、子どもの人権について考えたことが無かったという方々に対しても、気づきの機会となったことがわかった。「これまでのご自身の子どもへの対応で、変えた方が良く感じることはありましたか」とのオープンな問いに対しては、約7割の方が上記の通り具体的な記載をし、意識変容が起こっていた。 これからももっと勉強会に参加したい、とのご意見も多く、「はまちる」を知る人も増え、外部からの評価も非常に高くなってきており、継続開催することにより、この地域の大人の人権意識は更に高まることを期待している。
障害者	相談先の不足	週3回、カウンセラーや支援者によるカウンセリングを行うことにより、心身の課題を抱える子達の課題が可視化・共有化されて適切な支援に結びつくなど、心のケアが出来る状態。	カウンセリングに来た人数、カウンセリングを要しなくなった人数、カウンセリングによる心身の変容に関するアンケート、他団体等への支援の繋がりの状況	週3回のカウンセリング(スクールカウンセラー配置)	週3回のカウンセリング達成。総実施回数子ども向け123回(2人)、大人向け83回(約30人)。スクールカウンセラーによる引きこもり児童へのカウンセリング回数増加。	家庭環境に困難を抱え、精神障害も持つ未成年者がチラシをもって自らカウンセリングに来て連携をとりながら自立に向かったケースや、子の特性を親子共に共有することができ困り感が減少したケースなど、子の心身の課題が持ち込まれ、整理され、行政、病院、弁護士など、必要な支援に繋がったケースが多かった。加えて、自己受容が進み障がい者手帳の取得に踏み切ったケースや、転職を執行できた、新しい生活を始めるために支援機関へ相談することができるようになった、など大人の相談者からのプラスのフィードバックも多かった。
中間支援者	事業実施上の困難	本事業を通してスキルを身につけていったサポートメンバーが、子や親からの相談などに適切に対応できている状態。	サポートメンバーの対応件数や、サポートに関する満足度	月1回、サポートメンバーを交えてのブラッシュアップ勉強会	月1回以上、内部勉強会やミーティングを行うことができた。合計実施回数35回。のべの合計参加者数は約150人(人数をカウントしていない月あり)(実数約12人)。	勉強会やカウンセリングで可視化された困難な状況について、知る機会を得、ミーティングで対応を皆で検討したり、実際に行動したことへの悩みを共有しあってお互いにアドバイスをし合うなどが繰り返された。その結果、利用した方からは、最初は不安が大きかったが大丈夫という気持ちになった、自分の気持ちに整理ができ方向性が見えた、生活保護や障害年金申請をすることができたのははまちるさんのおかげ、などの声も多く、サポートのスキルは上がっていると評価できる。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	いわき地域において、コロナの影響を受けた障がい児らの生活環境が改善し、子も親も、コロナ前以上に安心して暮らせて、今後の災害時にも対応可能なレジリエンスが高まった状態。 本事業を通して育成されたサポートメンバーがレベルアップしており、今後の緊急時にも、すぐに対応ができる仕組みができている状態。 当団体及び協力団体だけで解決できないケースについて、行政や他の支援団体等と連携し、多面的な支援ができる仕組みが作られている状態。
考察等	障がい児や発達に特性を持つ子ども達の中で、困難を抱えている子どもが可視化され、生活環境の改善に至ったケースも多くあった。そのほか、子や大人に対する勉強会やカウンセリングルーム事業が定期的に存在する状況を作ったことにより、困ったときに安心して相談できる場があるということが、徐々に地域に周知されていった。また、特性や障がいを持つ子への接し方を学んだ大人達が、関わりを実践し、例えば不登校の子が学校に行きやすくなったり、学習機会が増えたりという変化も生まれている。 サポートメンバーのレベルはアップしており、それぞれの持ち場で、新たな取り組み（・LGBTの相談などの定期開催・ヤングケアラー支援・子ども食堂・相談可能インスタライブなど）も多く生まれていった。コロナ禍の結果、地域の講師を招く勉強会をメインにしたことにより、行政や他の団体との連携も生まれたことから、今後の災害等においても、多面的に連携を取って支援できる環境も作ることが出来た。

V. 活動

活動	進捗	概要
子の勉強・対話の会	ほぼ計画通り	サポートメンバー内の専門家(弁護士、保育士、ヨガインストラクターなど)が子どもたちのいる場に行き、直接講演やワークショップを開催。
親の勉強・対話の会	計画通り	月に1回、障がい福祉に携わる講師をお招きしてのはまちな勉強会、3ヵ月に1度、講師と行政をお呼びしてのはまちなフォーラムの開催(参加料無料)。コロナの感染拡大で直接来場することが難しい方向けにオンラインでの配信も平行し、目標を大幅に上回る参加があった。
カウンセリングサポート	計画通り	無料の常設カウンセリングルームを運用。相談内容・相手に応じてスクールカウンセラーも配置。 スクールカウンセラーによる引きこもり児童2名へのカウンセリングは週に1回であったものが週に2回に増化したほか、多い月では5人ほどの新規カウンセリング利用者があった。
サポートメンバーブラッシュアップ会	計画通り	サポートメンバーが定期的集まり、事業を通して困難と感ずることを共有し合っており、皆で意見を出し合ったり検討したりを繰り返した。勉強会等で学んだことを、更に多くの方に伝えたりした結果、サポートメンバーになりたいとの申し出も増えている。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	取り組みを続ける中で、親も子も障がいを持ち、十分な食事をとれていない子がいたり、安心して悩みを打ち明ける相手がなかなかいない（親や先生に対する不信感）状況もみられたため、安心して過ごすことができる常設の場が必要と考え、(助成金以外の資金を使い) 子ども食堂を令和3年7月からスタートさせた。 また、コロナの影響で勉強会をオンラインで開催していたところ、良い反響もあったこと、中学生にリーチするためにはインスタなどの媒体が良いのではとの子どもからのアイデアがあったため、毎週木曜19時から1時間、インスタライブをスタートさせた。結果、親と子どもと一緒に聞いてくれたり、高校生などもゲスト参加してくれるなど、堅苦しくない入り口としての役割を果たすこととなった。 取り組みを通して、民間だけではどうにもならないことも多く見つかったため、提言書を纏め、2021年12月に、副市長と懇談する機会をいただいた。4月には、市長との懇談の場を設けていただく予定である。
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	大人の、障がい特性への理解が深まった。子らが、助けを求められることができる心理的安全性のある場をもつことができた（カウンセリングルーム（はまちなむ）、子ども食堂、勉強会（サロン）など）。 困難事例に対して、連携して取り組み、対象の子の環境改善に繋がる事例がいくつもあった。 そうした事例を共有し、対応できるサポートメンバーが増えた。 今後ははまちなむ、大人と子の勉強会を継続し、特性を持つ子が生きづらさを伝える信頼できる大人・場があることを広め、特性をもつ子に対応する力をもつ大人が増えていくことが期待できる。
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
(株)あんど	本事業の実行協力。
いわき市教育委員会	特性や障がいを持つ不登校傾向の子などが学校に通いやすくなるよう、学校との協議に協力いただいた。
いわき法律事務所	法的支援が必要な子ども、大人に対して、法的対応を行った。
地区センター	障がい児・者への対応を相互に協力させていただいた。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

事業費	計画額	実績額	執行率
直接事業費	7,295,275	7,353,550	100.8%
管理的経費	204,725	150,000	73.3%
合計	7,500,000	7,503,550	100.0%

補足説明	
------	--

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	2021/1/25 福島民友 1月22日開催のはまちな勉強会の講話について 2021/3 フリーペーパー「キッズ★アリベ」 4月のはまちな勉強会、フォーラムについて 2021/4/18 福島民友 4月16日開催のはまちな勉強会の講話について 2021/4 フリーペーパー「キッズ★アリベ」 5月のはまちな勉強会について 2021/5/3 福島民友 4月25日に開催のはまちな勉強会の講話について 2021/5 フリーペーパー「キッズ★アリベ」 6月のはまちな勉強会について 2021/6/28 福島民友 6月18日開催のはまちな勉強会の講話について 2021/6 フリーペーパー「キッズ★アリベ」 7月のはまちな勉強会について 2021/7/21 福島民友 7月16日開催のはまちな勉強会の講話について 2021/7 フリーペーパー「キッズ★アリベ」 8月のはまちな勉強会について 2021/8 フリーペーパー「キッズ★アリベ」 9月のはまちな勉強会について 2021/9/2 福島民友 8月27日開催のはまちな勉強会の講話について 2021/9/8 福島民友 9月4日開催のはまちな勉強会の講話について 2021/9/20 福島民友 9月4日開催のはまちな勉強会講師工藤さんの記事 2021/10 いわきFM出演 はまちなについて 2021/10 フリーペーパー「キッズ★アリベ」 11月のはまちな勉強会について 2021/11 フリーペーパー「キッズ★アリベ」 12月のはまちな勉強会、フォーラムについて 2021/12 フリーペーパー「キッズ★アリベ」 1月のはまちな勉強会について 2021/12/18 福島民友 12月18日開催のはまちな勉強会について 2021/12/27 福島民友 12月18日開催のはまちな勉強会の講話内容について
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	2021/7 はまちな勉強会予定チラシ 500枚 2021/8 はまちな勉強会チラシ 28,000枚 2021/10 はまちな勉強会、フォーラム予定チラシ 50,000枚 全校配布 2021/11 はまちな勉強会チラシ 30,000枚
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	チラシへの記載
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	今後、公開予定。
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	